



R-18

桐原 空

# e a a e 5 e e 3





どういう訳か、  
宿敵に葬られた筈の命は巻き戻っており、  
再び刀を持ち、鬼を狩る鬼殺隊となっていた。



ならばせめて、今生は姉を守る為に  
文字通り血を吐くほど努力をし、  
姉よりも先に齡14にて柱となり、  
運命の任務を迎えた。

しかし、出会った上弦の式は  
己と対峙した記憶を持ち合わせて居たのか、  
目の前で目玉を切り刻み、蹲りながら再会を喜んだ。

また、君に出会えるなんて！  
こんな称号も何も要らない。  
ねえ、君と話しがしたいんだ！





上弦の式となるまでに数多の人間を喰らった筈だが、  
しかしながら今生でのコイツの過ちは  
直接己には関係がない、気色が悪いし夢見も悪いので、  
血を分けてやった。

恩を売ったつもりは無いが、  
この鬼を従える事となった。

鬼はみるみる回復した。  
しかしながら目の切り傷は治る事が無かった。



しのぶちゃんあ〜ん…





無惨の呪いを自力で破ったまでは良かったが、  
太陽光は克服出来ず、人を喰わないと己を保てない。



しのぶの涙や体液を吸り、  
日々を繋ぎ、



任務先で死体が転がっていれば  
食べると言うことを繰り返していた。

ドギョウ

お腹すいたよう…

鬼は人間を喰らう、  
しかし、しのぶは童磨が人間を  
喰らう事を良しとしなかった。





ちゃんと仕事なさい。  
居るのでしよう？この森に。

しのぶちゃんも、昨日は隊士の治療とかで  
夜遅かったんだろ？知ってるんだぜ。

しな  
う

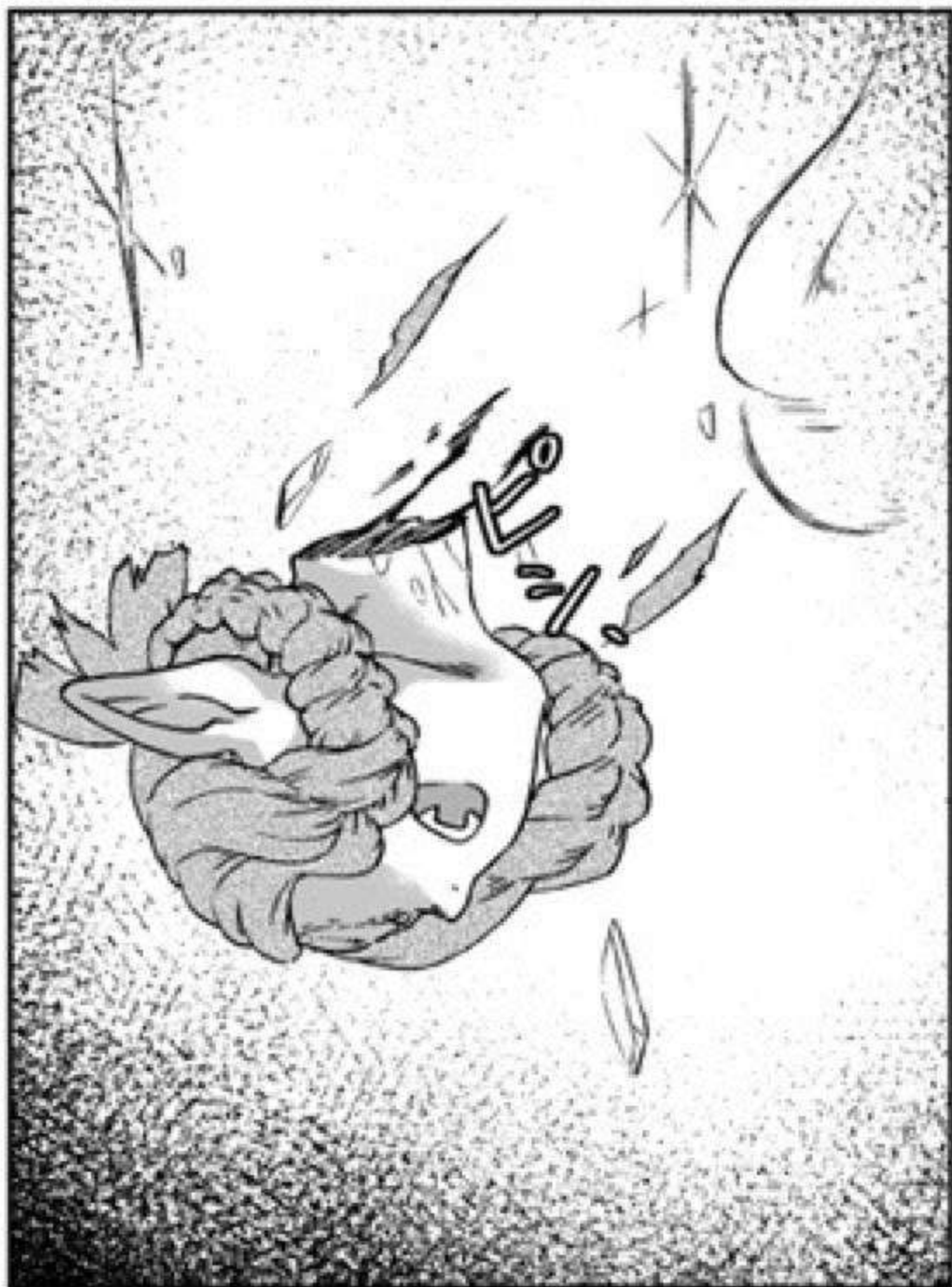




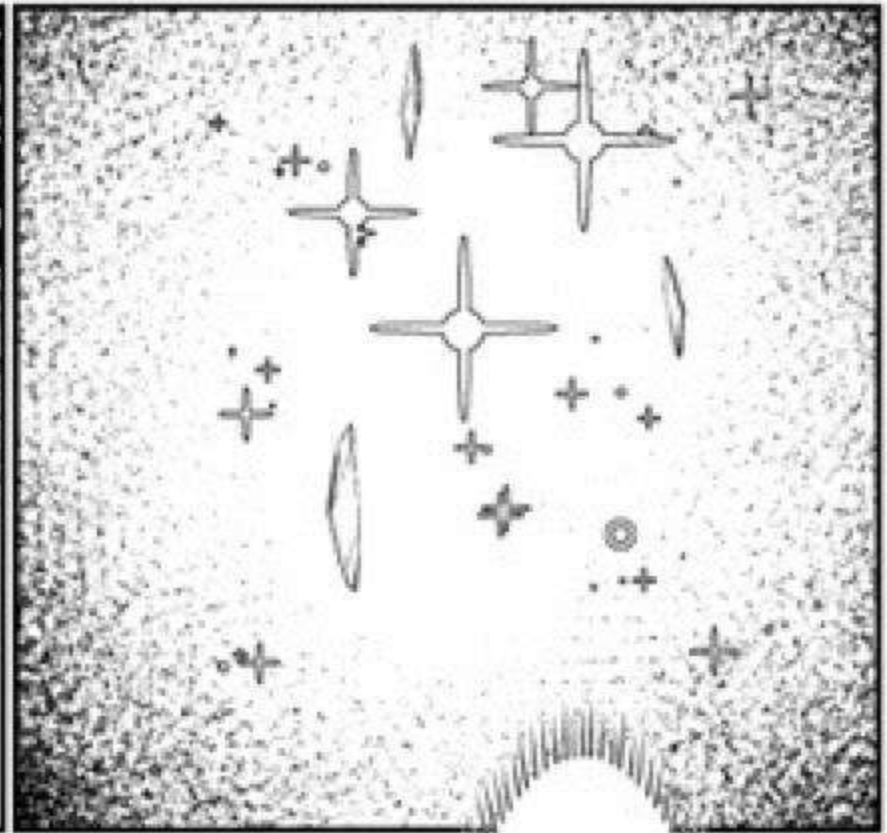












万一の事を考えて作っていた  
藤毒の成分を染み込ませた飾り紐、  
元上弦とはいえ、これで、鎮まるはず…











このままでは…  
彼の暴走が解けたとしても、隊律違反として、  
他の鬼殺隊が彼を手にかける事となる…

戻って来なさい！

仲間としての彼を討たせるなど、  
あってはいけない！！





童、ま...



ッ!!  
血が...! 吸われる...!!









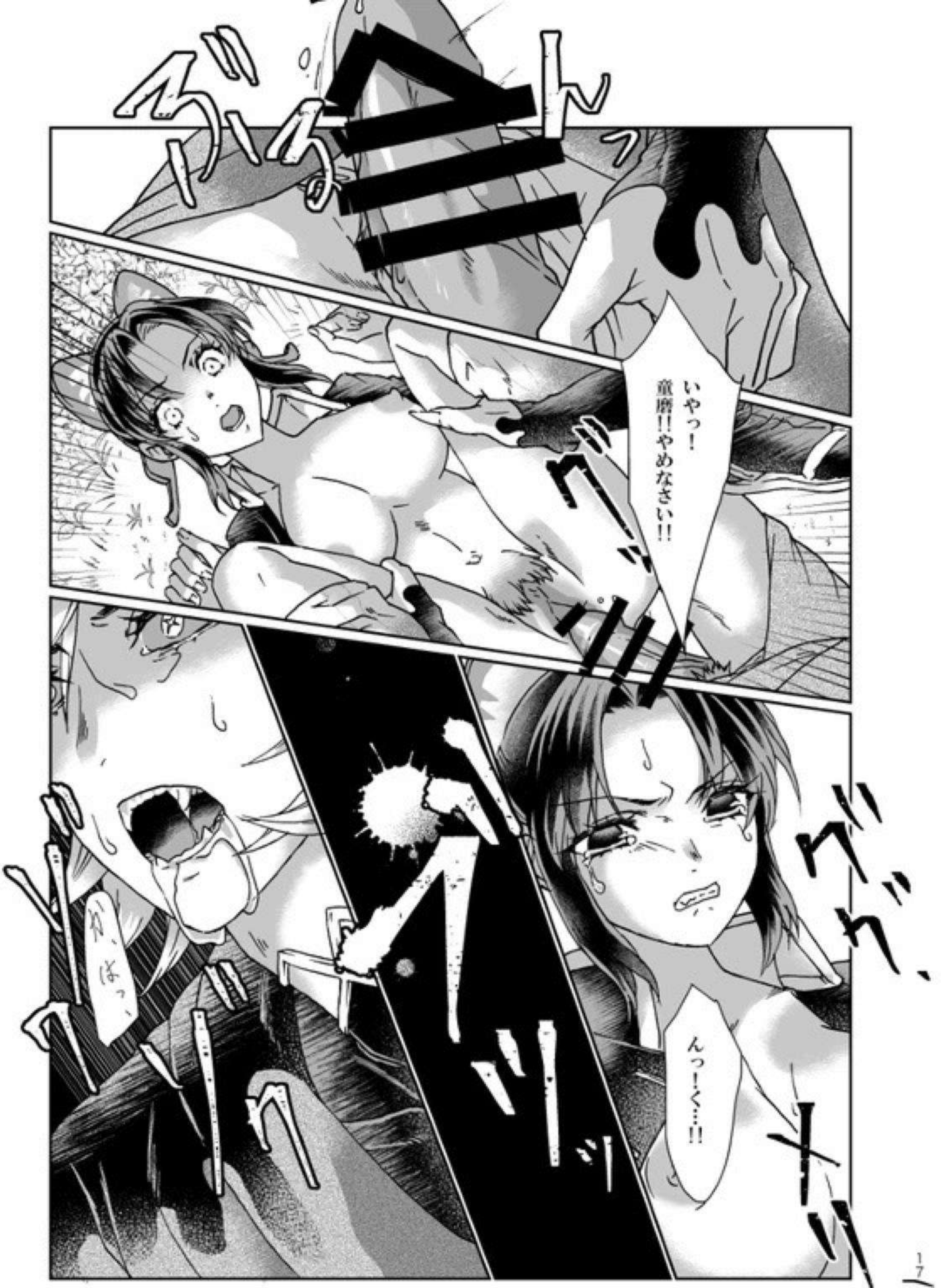
もしかしたら、  
もしかしなくてもこれは...



彼にとつての栄養源を  
暫く与えていなかった事を後悔した。







いやっ!  
童磨!!やめなさい!!

んっく...!!









あつ!!はうつ...!!



お...前...  
戻ってるじゃないですかアツ!!

あ、えっ!?



なっ、なんでわかつちやっただのかな!

ふさげるなよ。

ごめん…しのぶちゃん、  
本当にごめん…。

なっ! コラッ!!

本当ごめん、気持ち良い、  
好き、好きだ! しのぶちゃん!!

あんっ!  
あっ! ああっ!

朝までには帰るから!  
ごめん! ごめん!!

糞…野ろ…

しのぶは意識を飛ばした。  
短い夢の中で鬼への拷問を考えながら、  
時間が経過した。





しのぶちゃんは怪我しちゃったみたいだから、  
俺が責任を持って寝かしてきます。



童磨くん、そういえば今日、  
しのぶがお庭当番だったのよ。  
代わりにあなたが当番してくれるわね？

問いかけてではない、命令だ。  
間もなく朝が来る。童磨は背に汗をかきながら、  
朝が来るまでの半刻、大急ぎで花々に水をやり、草をこなし、  
太陽が顔を出した時、眠るしのぶの腹の上で童磨は泣きながら詫言った。

カクカ

カク









R-18

禁  
制

#eae5e3